

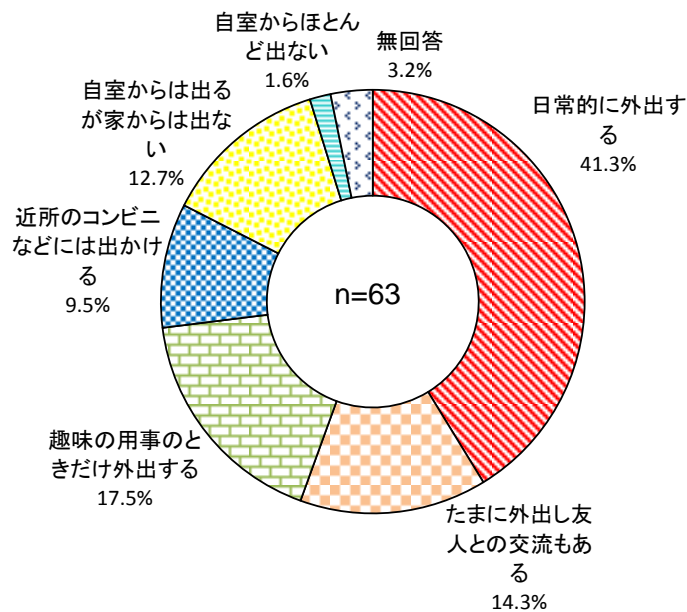
7 若者の自立支援

(1) 普段の過ごし方（相談機関等利用者）

あなた（本人）の普段の過ごし方として最も近いものを、次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 日常的に外出する | 2 たまに外出し友人との交流もある |
| 3 趣味の用事の時だけ外出する | 4 近所のコンビニなどには出かける |
| 5 自室からは出るが家からは出ない | 6 自室からほとんど出ない |

図 4. 7. 1



相談機関等利用者には、普段の過ごし方を聞いたところ、「日常的に外出する」が 41.3%と最も多く、次いで「趣味の用事の時だけ外出する」(17.5%)、「たまに外出し友人との交流もある」(14.3%)、「自室からは出るが家からは出ない」(12.7%)と続いています。回答者の8割以上が、何らかの理由で外出する機会があると回答しています。

(2) ひきこもり

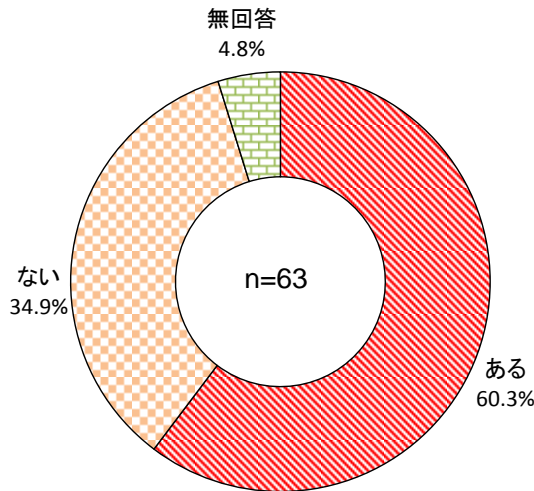
ア. ひきこもりの経験（相談機関等利用者）

あなた（本人）は、以前に家に閉じこもっていたり、前問の「3～6」の状態でしたことがありますか。次のどちらかに○をつけてください。また、「1 ある」場合、それはどの位の期間ですか。おおよその期間を数字で記入してください。

1 ある ……………期間 _____ヶ月または _____年

2 ない

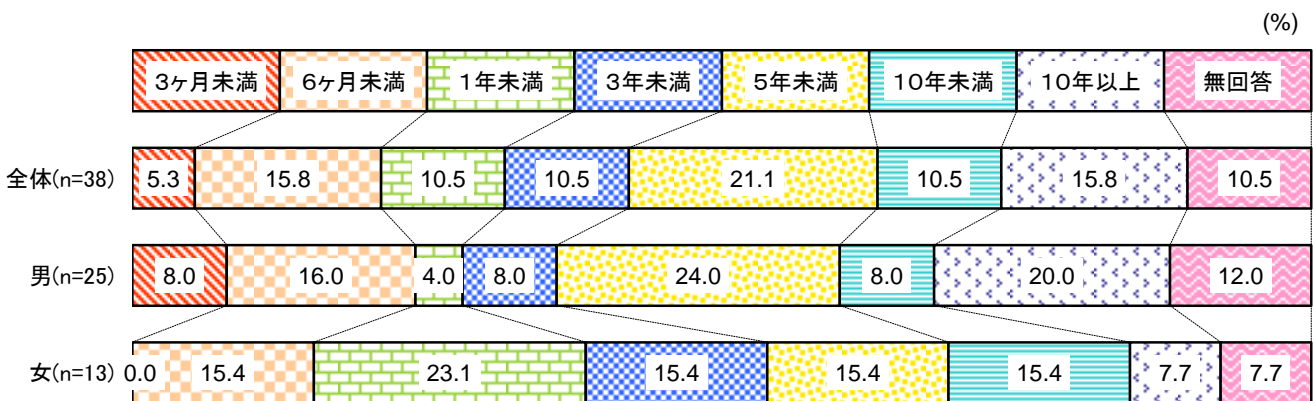
図 4. 7. 2



相談機関等利用者には、引きこもりの経験を聞いたところ、「ある」が60.3%と「ない」(34.9%)を上回っています。

イ. ひきこもりの期間（相談機関等利用者）

図 4. 7. 3



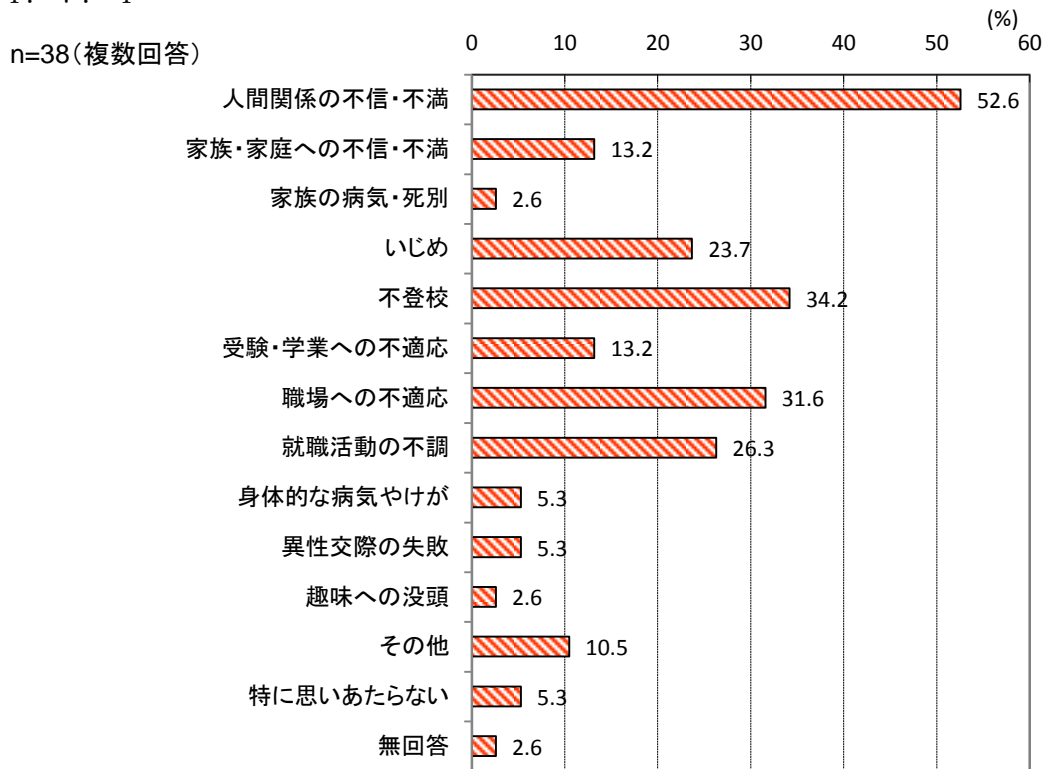
ひきこもりの経験が「ある」と回答した人の、ひきこもりの期間は、「5年未満」が21.1%、次いで「10年以上」と「6ヶ月未満」が15.8%となっています。回答者のうち計47.4%が3年以上の引きこもり期間があったと回答しています。

ウ. ひきこもりになったきっかけ（相談機関等利用者）

前問で「1 ある」と回答した方にお伺いします。その状態になったきっかけはなんですか。あてはまるものを全部選んで番号に○をつけてください。

| | | |
|--------------|----------------|--------------|
| 1 人間関係の不信・不満 | 2 家族・家庭への不信・不満 | 3 家族の病気・死別 |
| 4 いじめ | 5 不登校 | 6 受験・学業への不適應 |
| 7 職場への不適應 | 8 就職活動の不調 | 9 身体的な病気やけが |
| 10 異性交際の失敗 | 11 趣味への没頭 | 12 その他（ ） |
| 13 特に思いあたらない | | |

図 4. 7. 4



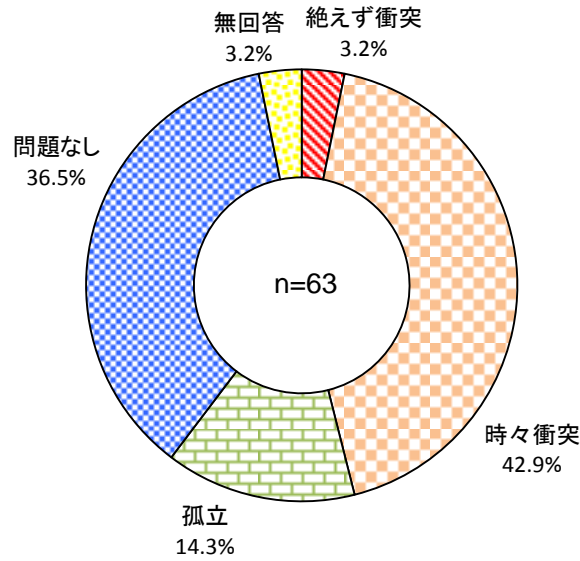
ひきこもりの経験が「ある」と回答した相談機関等利用者には、ひきこもりになったきっかけを聞いたところ、「人間関係の不信・不満」が52.6%と最も多く、次いで「不登校」(34.2%)、「職場への不適應」(31.6%)、「就職活動の不調」(26.3%)、「いじめ」(23.7%)と続いています。

(3) 家族との関係 (相談機関等利用者)

家族との関係性について、次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1 絶えず衝突 2 時々衝突 3 孤立 4 問題なし

図 4. 7. 6



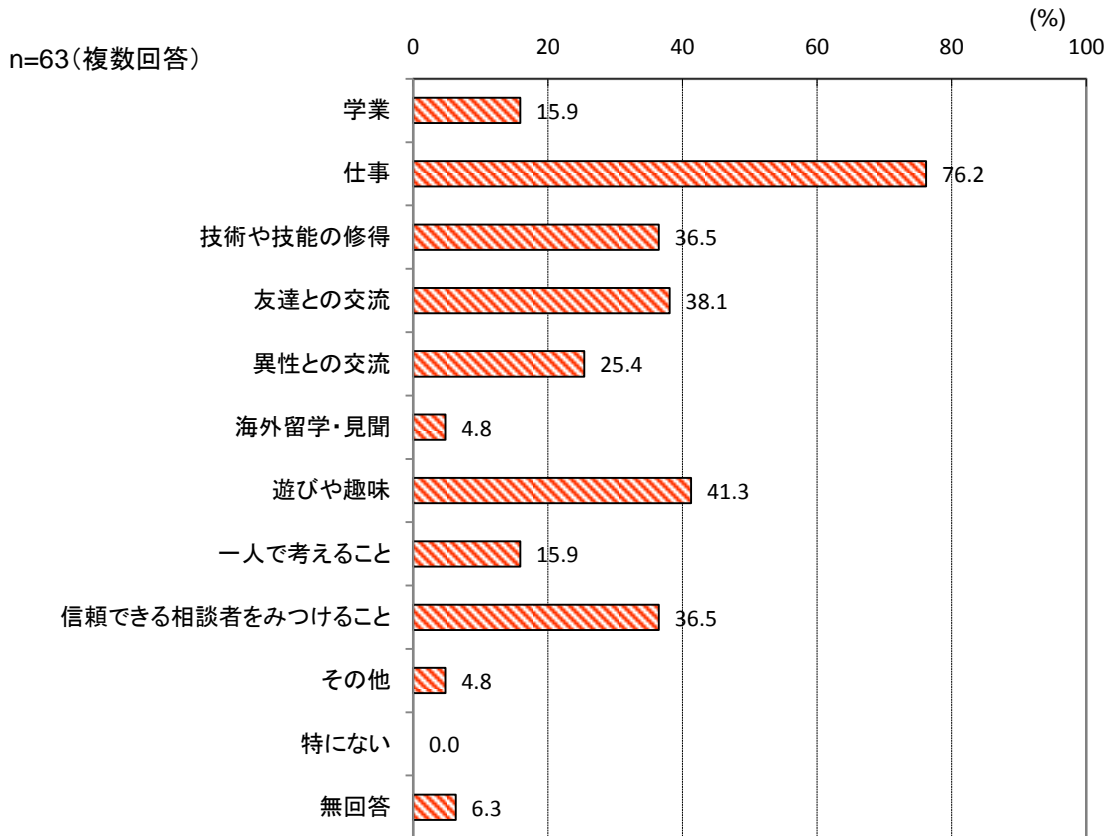
相談機関等利用者には、家族との関係を聞いたところ、「時々衝突」が 42.9%と最も多く、次いで「問題なし」(36.5%)、「孤立」(14.3%)、「絶えず衝突」(3.2%) となっています。約6割が衝突や孤立など、何らかの問題を抱えていると回答しています。

(4) 今やりたいこと、将来必要なこと（相談機関等利用者）

あなた（本人）が今やりたいこと、将来の自分にとって必要だと思っていることは何ですか。次の中から、あてはまるものを全部選んで番号に○をつけてください。

- | | | |
|-----------|------------|-------------------|
| 1 学業 | 2 仕事 | 3 技術や技能の修得 |
| 4 友だちとの交流 | 5 異性との交流 | 6 海外留学・見聞 |
| 7 遊びや趣味 | 8 一人で考えること | 9 信頼できる相談者を見つけること |
| 10 その他（ | | ） |
| 11 特にない | 12 わからない | |

図 4. 7. 7

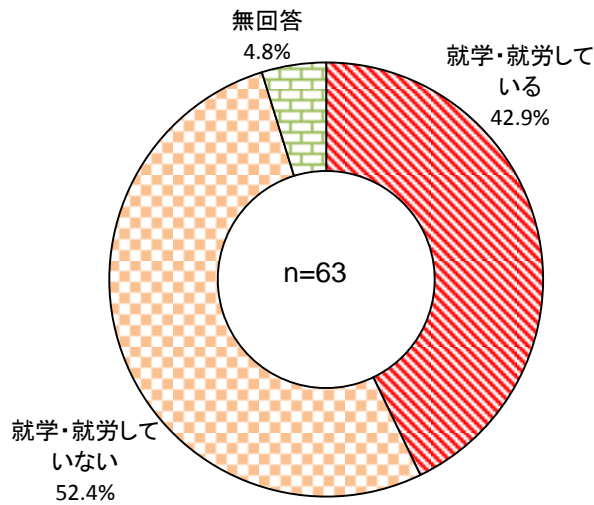


相談機関等利用者には、今やりたいことや将来必要なことを聞いたところ、「仕事」が 76.2%と最も多く、次いで「遊びや趣味」(41.3%)、「友達との交流」(38.1%)、「技術や技能の修得」「信頼できる相談者を見つけること」(いずれも 36.5%) と続いています。

(5) 現在の就学・就労状況（相談機関等利用者）

現在の就学・就労状況について、次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。
 1 就学・就労している 2 就学・就労していない

図 4. 7. 8

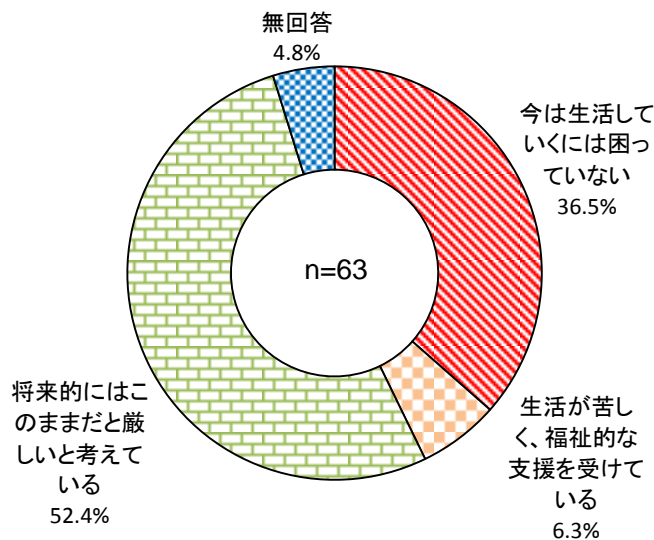


相談機関等利用者に、現在の就学・就労状況を聞いたところ、「就学・就労していない」が52.4%と、「就学・就労している」の42.9%を上回っています。

(6) 家庭の経済状況（相談機関等利用者）

家庭の経済状況について、次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。
 1 今は生活していくには困っていない 2 生活が苦しく、福祉的な支援を受けている
 3 将来的にはこのままだと厳しいと考えている 4 その他（ ）

図 4. 7. 9



相談機関等利用者に、家庭の経済状況を聞いたところ、「将来的にはこのままだと厳しいと考えている」が52.4%と、「今は生活していくには困っていない」(36.5%)を上回っています。「生活が苦しく、福祉的な支援を受けている」(6.3%)と合わせると、計58.7%の人が経済的に厳しい状況にあると回答しています。

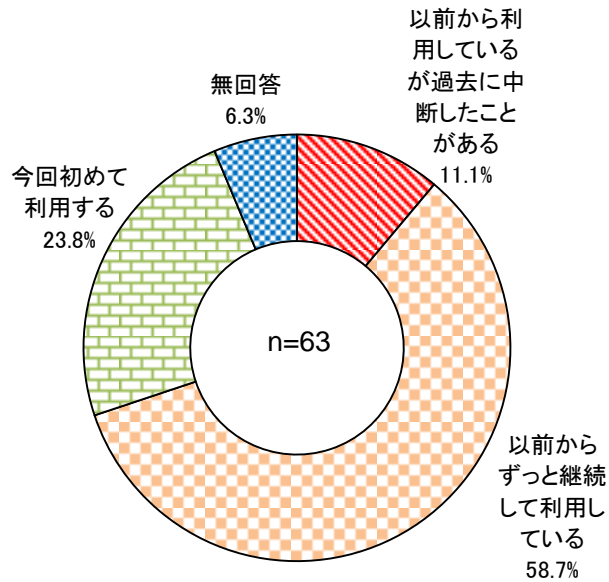
(7) 相談機関

ア. 相談機関の利用状況（相談機関等利用者）

相談機関の利用について、次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

1 以前から利用しているが過去に中断したことがある
 2 以前からずっと継続して利用している
 3 今回初めて利用する

図 4. 7. 10



相談機関等利用者には、相談機関の利用について聞いたところ、「以前からずっと継続して利用している」が 58.7%、「今回初めて利用する」(23.8%)、「以前から利用しているが過去に中断したことがある」(11.1%) となっています。

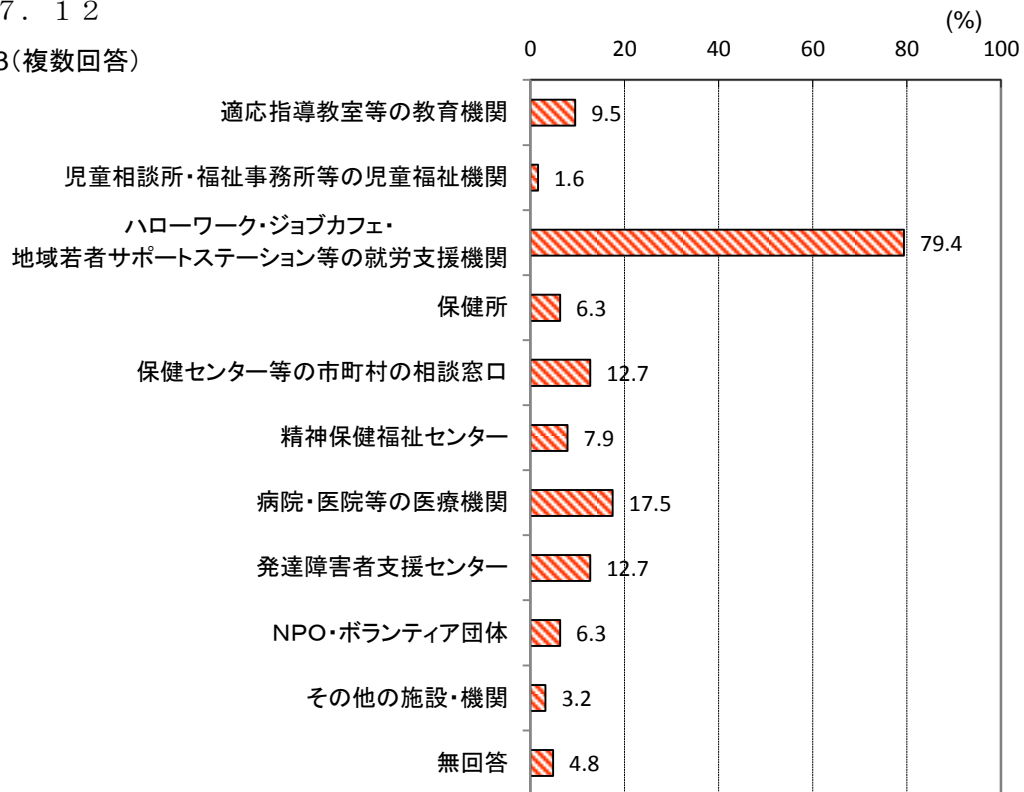
ウ. 今まで利用したことのある相談機関（相談機関等利用者）

現在も含めて、今までに利用したことのある相談支援機関はどれになりますか。あてはまるものを全部選んで番号に○をつけてください。

| | |
|--|-----------------------|
| 1 適応指導教室等の教育機関 | 2 児童相談所・福祉事務所等の児童福祉機関 |
| 3 ハローワーク・ジョブカフェ・地域若者サポートステーション等の就労支援機関 | |
| 4 保健所 | 5 保健センター等の市町村の相談窓口 |
| 6 精神保健福祉センター（こころの健康センター） | |
| 7 病院・医院等の医療機関 | 8 発達障害者支援センター |
| 9 NPO・ボランティア団体 | |
| 10 その他の施設・機関（ | ） |

図 4. 7. 12

n=63(複数回答)



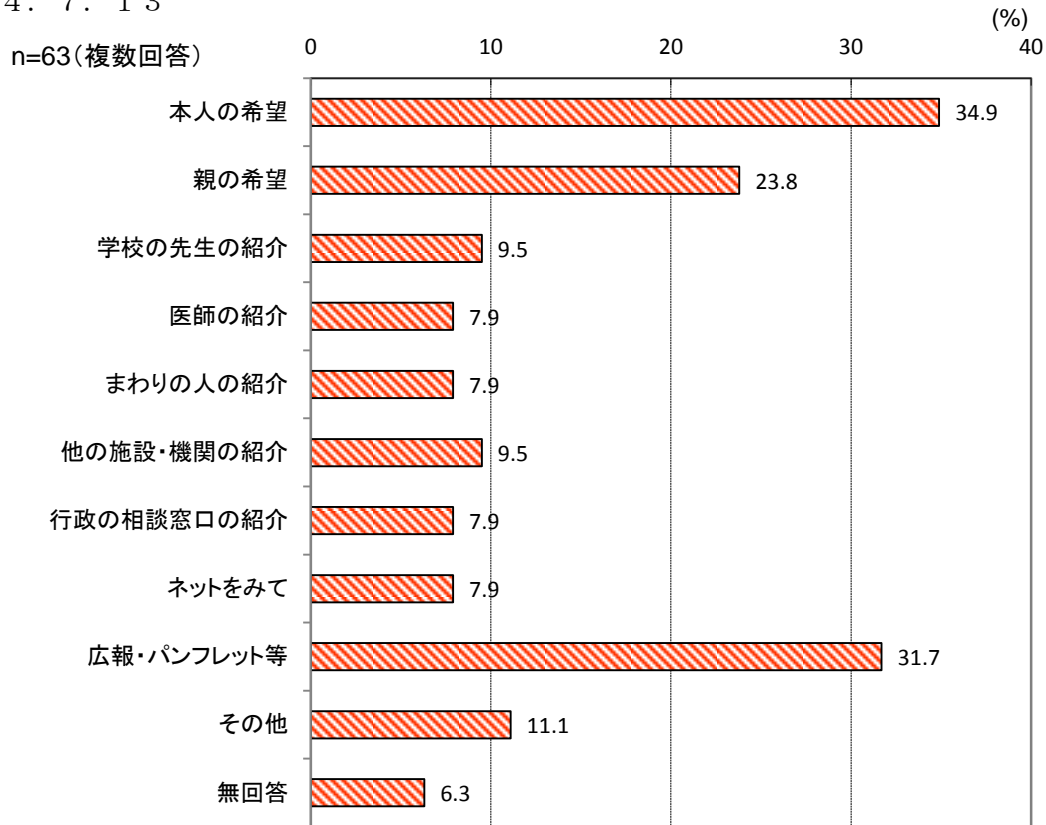
相談機関等利用者に、今まで利用したことのある相談機関を聞いたところ、「ハローワーク・ジョブカフェ・地域若者サポートステーション等の就労支援機関」が 79.4%と、他に比べて多くなっています。次いで「病院・医院等の医療機関」(17.5%)、「保健センター等の市町村の相談窓口」「発達障害者支援センター」(いずれも 12.7%)と続いています。

エ. 現在の相談機関と関わるようになったきっかけ（相談機関等利用者）

現在の相談機関と関わるようになったきっかけはなんですか。次の中から、あてはまるものを全部選んで番号に○をつけてください。

| | | |
|--------------|------------|--------------|
| 1 本人の希望 | 2 親の希望 | 3 学校の先生の紹介 |
| 4 医師の紹介 | 5 まわりの人の紹介 | 6 他の施設・機関の紹介 |
| 7 行政の相談窓口の紹介 | 8 ネットをみて | 9 広報・パンフレット等 |
| 10 その他（ | | ） |

図 4. 7. 1 3

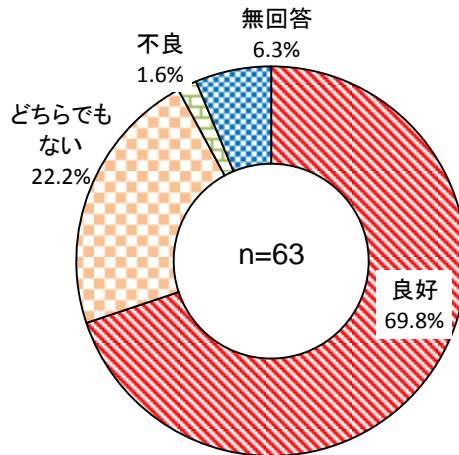


相談機関等利用者には、現在の相談機関と関わるようになったきっかけを聞いたところ、「本人の希望」が 34.9%と最も多く、次いで「広報・パンフレット等」(31.7%)、「親の希望」(23.8%)、「学校の先生の紹介」「他の施設・機関の紹介」(それぞれ 9.5%)と続いています。

オ. 現在の相談機関との関わりの状態（相談機関等利用者）

現在の相談支援機関との関わりの状態を、次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。
 1 良好 2 どちらでもない 3 不良

図 4. 7. 14



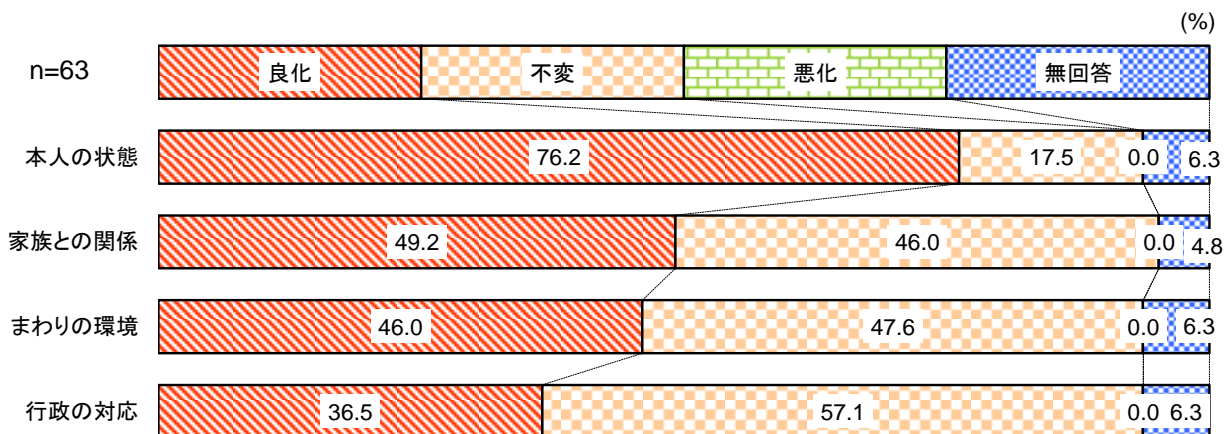
相談機関等利用者には、現在の相談機関との関わりの状態を聞いたところ、「良好」が69.8%と、「どちらでもない」(22.2%)、「不良」(1.6%)を上回っています。

カ. 相談機関との関わりによって生じた変化（相談機関等利用者）

相談支援機関との関わりによって、生じた変化を各項目1つずつ選んで番号に○をつけてください。

| | | | |
|----------|------|------|------|
| ・ 本人状態 | 1 良化 | 2 不変 | 3 悪化 |
| ・ 家族との関係 | 1 良化 | 2 不変 | 3 悪化 |
| ・ まわりの環境 | 1 良化 | 2 不変 | 3 悪化 |
| ・ 行政の対応 | 1 良化 | 2 不変 | 3 悪化 |

図 4. 7. 15



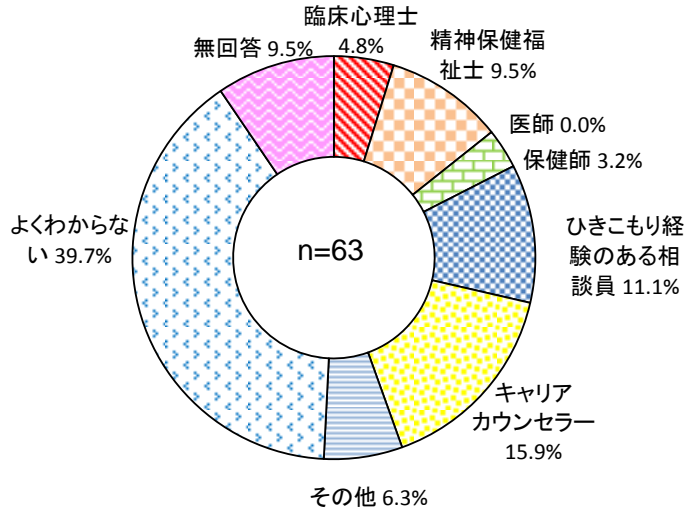
相談機関等利用者には、相談機関との関わりによって生じた変化を聞いたところ、本人の状態は、76.2%が「良化」したと回答しています。一方、家族との関係、まわりの環境、行政の対応は、「良化」がそれぞれ49.2%、46.0%、36.5%にとどまっています。

ケ. 一番望ましい相談相手（相談機関等利用者）

一番望ましい相談相手を次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

| | | |
|----------|-----------------|--------------|
| 1 臨床心理士 | 2 精神保健福祉士 | 3 医師 |
| 4 保健師 | 5 ひきこもり経験のある相談員 | 6 キャリアカウンセラー |
| 7 その他（ ） | 8 よくわからない | |

図 4. 7. 18



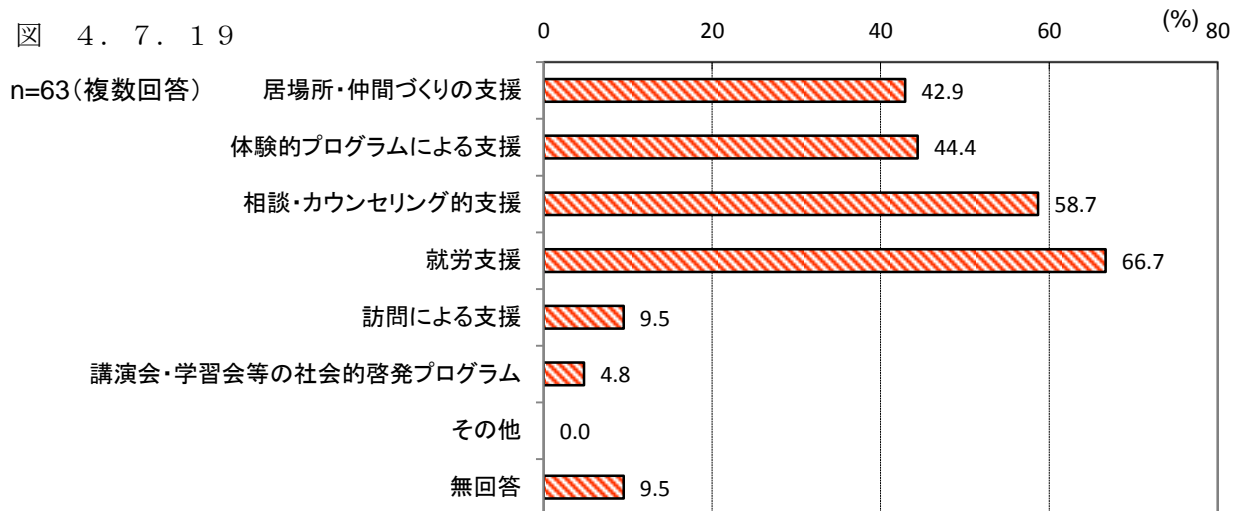
相談機関等利用者には、一番望ましい相談相手を聞いたところ、「キャリアカウンセラー」が 15.9%と最も多く、次いで「ひきこもり経験のある相談員」(11.1%)、「精神保健福祉士」(9.5%)、と続いています。また、「よくわからない」と 39.7%が回答しています。

コ. 相談機関に求める支援（相談機関等利用者）

あなた（本人）が、相談支援機関に求める支援を全部選んで番号に○をつけてください。

| | |
|-----------------|----------------------|
| 1 居場所・仲間づくりの支援 | 2 体験的プログラムによる支援 |
| 3 相談・カウンセリング的支援 | 4 就労支援 |
| 5 訪問による支援 | 6 講演会・学習会等社会的啓発プログラム |
| 7 その他（ ） | |

図 4. 7. 19



相談機関等利用者には、相談機関に求める支援を聞いたところ、「就労支援」が 66.7%と最も多く、次いで「相談・カウンセリング支援」(58.7%)、「体験的プログラムによる支援」(44.4%)、「居場所・仲間づくりの支援」(42.9%)と続いています。

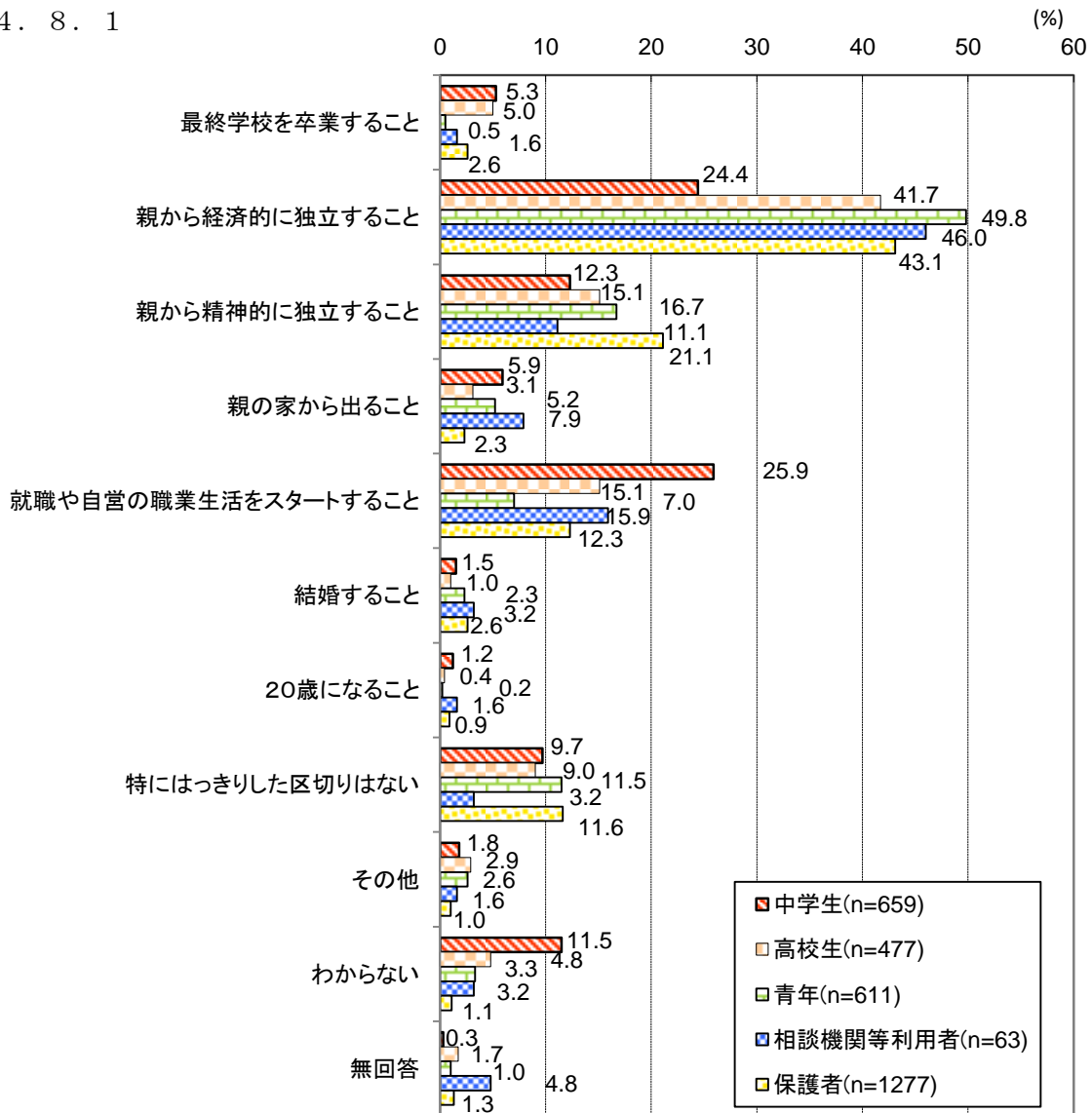
8 自立について（中学生、高校生、青年、相談機関等利用者、保護者）

あなたにとって「自立」とはどのような状態だと考えますか。次の中から1つまで選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 最終学校を卒業すること | 2 親から経済的に独立すること |
| 3 親から精神的に独立すること | 4 親の家から出ること |
| 5 就職や自営の職業生活をスタートすること | 6 結婚すること |
| 7 20歳になること | 8 特にはっきりした区切りはない |
| 9 その他（ ） | 10 特になし |

※「保護者」については、「お子さんの自立」について聴取

図 4. 8. 1



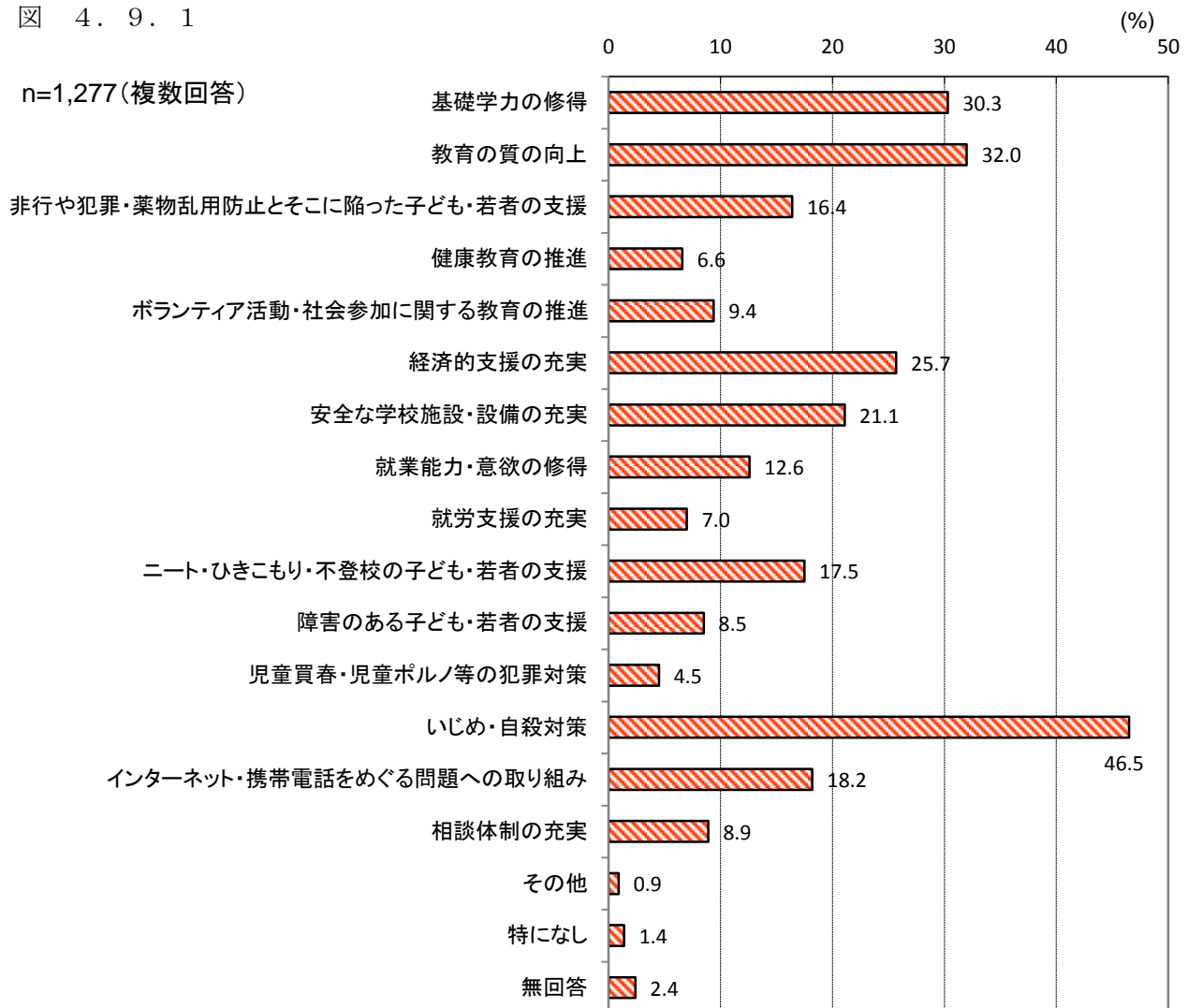
中学生、高校生、青年、相談機関等利用者、保護者に、「自立」とはどのような状態かを聞いたところ、中学生では、「就職や自営の職業生活をスタートすること」が25.9%と最も多く、次いで「親から経済的に独立すること」(24.4%)となっています。高校生、青年、相談機関等利用者、保護者では、「親から経済的に独立すること」が最も多く、それぞれ41.7%、49.8%、46.0%、43.1%となっています。次いで、青年、保護者では「親から精神的に独立すること」(それぞれ16.7%、21.1%)、高校生では「親から精神的に独立すること」「就職や自営の職業生活をスタートすること」がともに15.1%、相談機関等利用者では「就職や自営の職業生活をスタートすること」が15.9%となっています。

9 行政が取り組むべき課題（保護者）

青少年の健全育成のため行政が取り組むべき課題として重要だと思うものは何ですか。次の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 基礎学力の修得 | 2 教育の質の向上 |
| 3 非行や犯罪・薬物乱用防止とそこに陥った子ども・若者の支援 | 5 ボランティア活動・社会参加に関する教育の推進 |
| 4 健康教育の推進 | 7 安全な学校施設・設備の充実 |
| 6 経済的支援の充実 | 9 就労支援の充実 |
| 8 就業能力・意欲の修得 | 12 児童売春・児童ポルノ等の犯罪対策 |
| 10 ニート・ひきこもり・不登校の子ども・若者の支援 | 14 インターネット・携帯電話をめぐる問題への取り組み |
| 11 障害のある子ども・若者の支援 | 16 その他（ ） |
| 13 いじめ・自殺対策 | 17 特になし |
| 15 相談体制の充実 | |

図 4.9.1



保護者に、青少年の健全育成のため行政が取り組むべき課題を聞いたところ、「いじめ、自殺対策」が46.5%と最も多く、次いで「教育の質の向上」(32.0%)、「基礎学力の修得」(30.3%)、「経済的支援の充実」(25.7%)、「安全な学校施設・設備の充実」(21.1%)、「インターネット・携帯電話をめぐる問題への取り組み」(18.2%)と続いています。

10 教員からみた児童生徒の状況（教員）

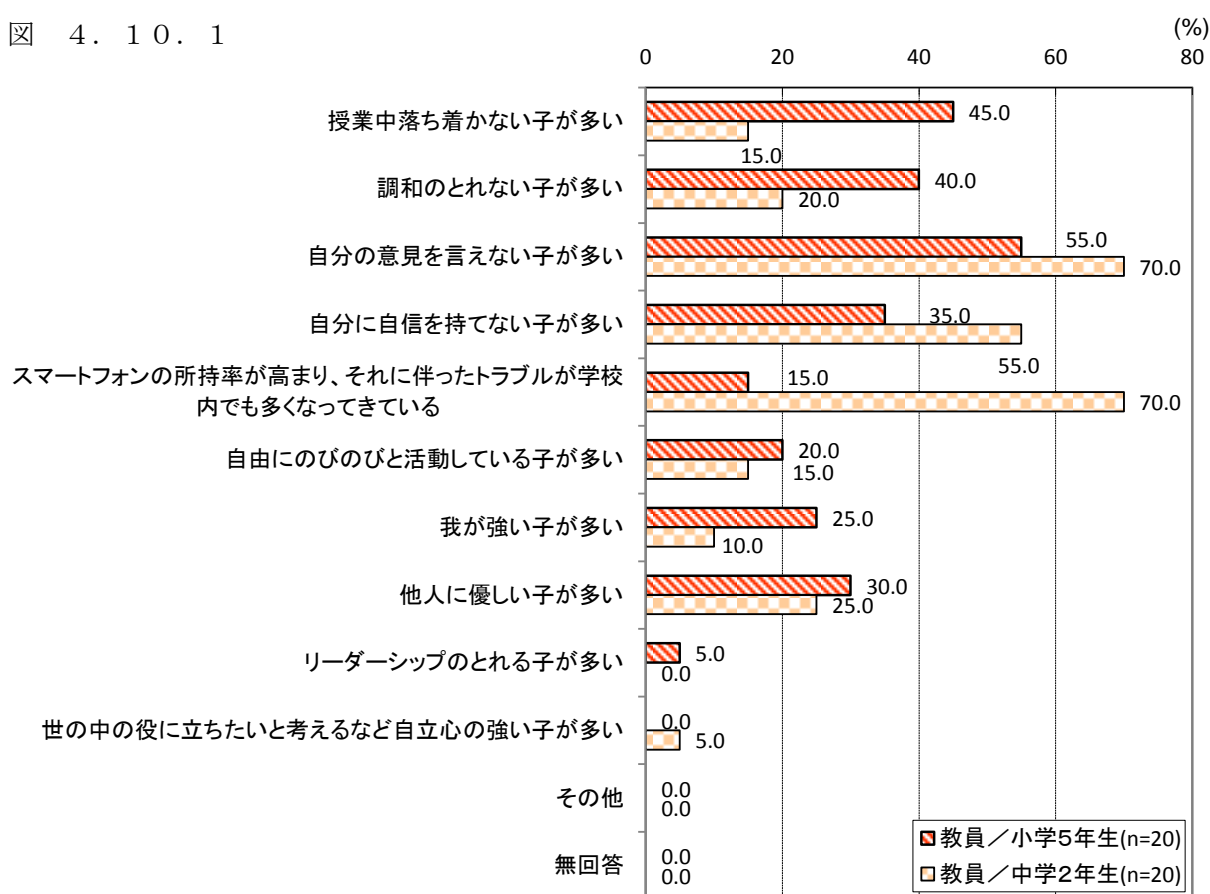
（1）児童生徒の持つ特徴（教員）

ア．児童生徒の持つ特徴（教員）

最近の児童生徒の学校生活における特徴について、次の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。

| | |
|---|-------------------|
| 1 授業中落ち着かない子が多い | 2 調和のとれない子が多い |
| 3 自分の意見を言えない子が多い | 4 自分に自信を持ってない子が多い |
| 5 スマートフォンの所持率が高まり、それに伴ったトラブルが学校内でも多くなってきている | 7 我が強い子が多い |
| 6 自由にのびのびと活動している子が多い | 9 リーダーシップのとれる子が多い |
| 8 他人に優しい子が多い | |
| 10 世の中の役に立ちたいと考えるなど自立心の高い子が多い | |
| 11 その他（ | ） |

図 4. 10. 1



教員に、最近の児童生徒の特徴を聞いたところ、小学生の教員では、「自分の意見を言えない子が多い」が 55.0%と最も多く、次いで「授業中落ち着かない子が多い」（45.0%）、「調和のとれない子が多い」（40.0%）と続いています。

中学生の教員では、「自分の意見を言えない子が多い」、「スマートフォンの所持率が高まり、それに伴ったトラブルが学校内でも多くなってきている」がいずれも 70.0%と最も多くなっています。

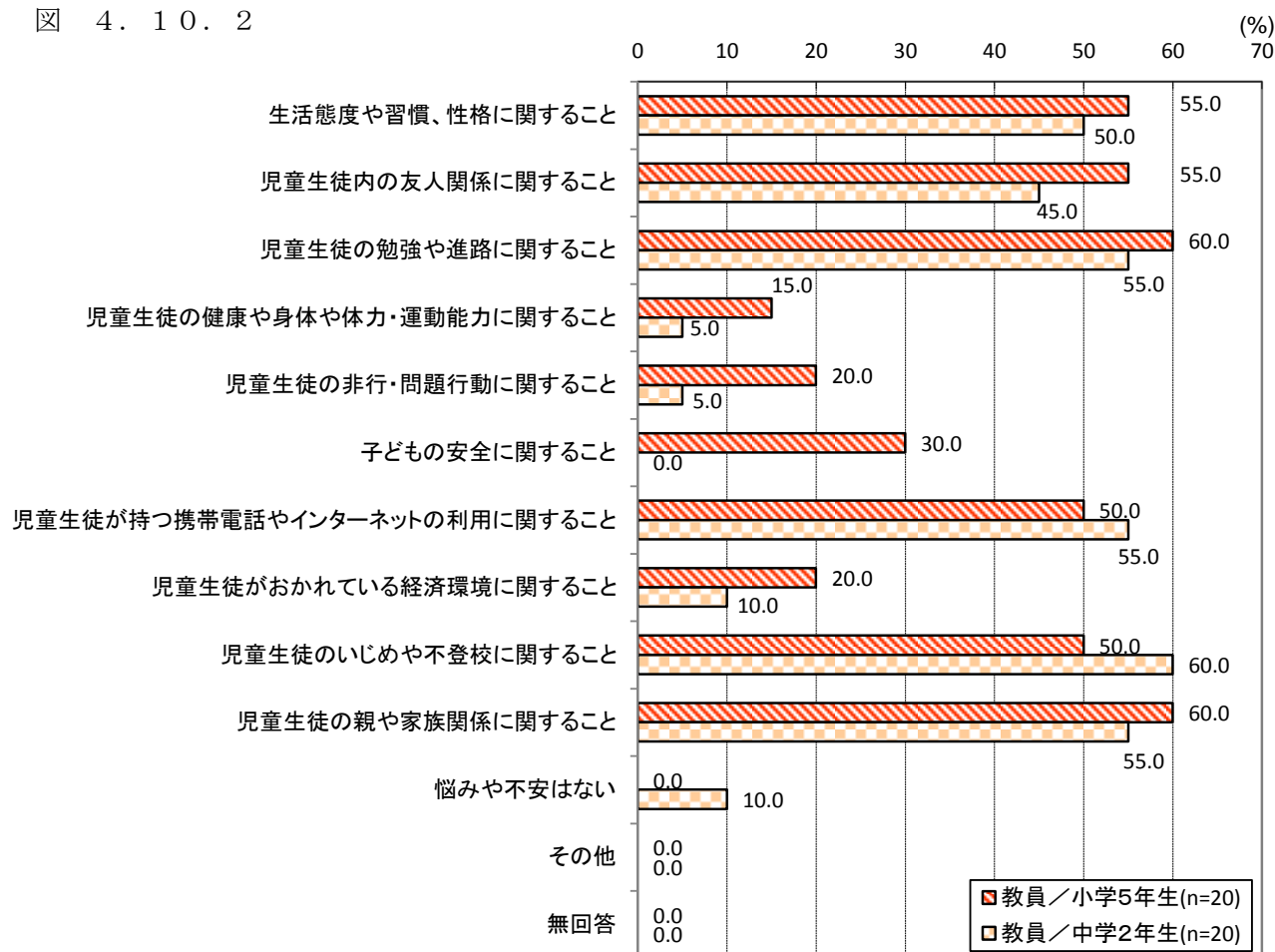
「スマートフォンの所持率が高まり、それに伴ったトラブルが学校内でも多くなってきている」の回答は、小学校の教員と中学校の教員とで大きな差がみられています。

イ. 児童生徒と関わる中での悩みや不安（教員）

児童生徒と関わる中での、悩みや不安と思うことは何ですか。次の中からあてはまるものは全部番号に○をつけてください。

| | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 生活態度や習慣、性格に関する事 | 2 児童生徒内の友人関係に関する事 |
| 3 児童生徒の勉強や進路に関する事 | 4 児童生徒の健康や身体や体力・運動能力に関する事 |
| 5 児童生徒の非行・問題行動に関する事 | 6 子どもの安全に関する事 |
| 7 児童生徒が持つ携帯電話やインターネットの利用に関する事 | |
| 8 児童生徒がおかれている経済環境（教育費等）に関する事 | |
| 9 児童生徒のいじめや不登校に関する事 | 10 児童生徒の親や家族関係に関する事 |
| 11 悩みや不安はない | 12 その他（ ） |

図 4. 10. 2



教員に、児童生徒と関わる中での悩みや不安を聞いたところ、小学校の教員では、「児童生徒の勉強や進路に関する事」、「児童生徒の親や家族関係に関する事」がいずれも60.0%と最も多く、次いで「生活態度や習慣、性格に関する事」、「児童生徒内の友人関係に関する事」それぞれ55.0%と続いています。

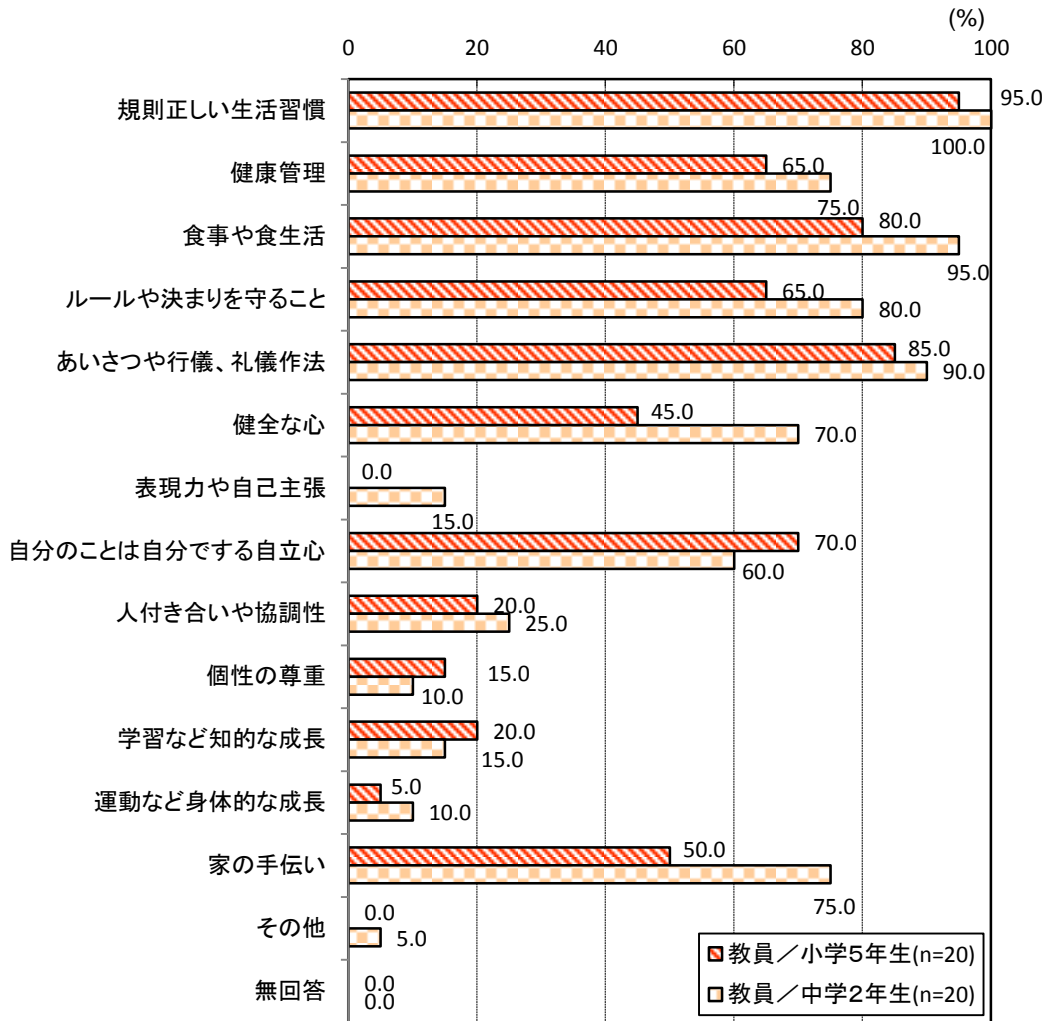
中学校の教員では、「児童生徒のいじめや不登校に関する事」が60.0%と最も多く、「児童生徒の勉強や進路に関する事」、「児童生徒が持つ携帯電話やインターネットの利用に関する事」、「児童生徒の親や家族関係に関する事」がいずれも55.0%で続いています。

ウ. 家庭教育により身につけるべきこと（教員） ※再掲

児童生徒が家庭教育により身につけるべきだと思うことは何ですか。次の中からあてはまるものは全部番号に○をつけてください。

| | | |
|----------------|------------------|---------------|
| 1 規則正しい生活習慣 | 2 健康管理 | 3 食事や食生活 |
| 4 ルールや決まりを守ること | 5 あいさつや行儀、礼儀作法 | 6 健全な心 |
| 7 表現力や自己主張 | 8 自分のことは自分でする自立心 | 9 人付き合いや協調性 |
| 10 個性の尊重 | 11 学習など知的な成長 | 12 運動など身体的な成長 |
| 13 家の手伝い | 14 その他（ ） | |

図 4. 1 0. 3



教員に、児童生徒が家庭教育により身につけるべきことを聞いたところ、小学校、中学校の教員ともに「規則正しい生活習慣」がそれぞれ 95.0%、100%と、回答者のほぼ全員が挙げています。次いで、小学校の教員では「あいさつや行儀、礼儀作法」（85.0%）、「食事や食生活」（80.0%）、「自分のことは自分でする自立心」（70.0%）、「ルールや決まりを守ること」（65.0%）と続いています。

中学校の教員では、「食事や食生活」（95.0%）、「あいさつや行儀、礼儀作法」（90.0%）、「健康管理」「家の手伝い」（75.0%）と続いています。

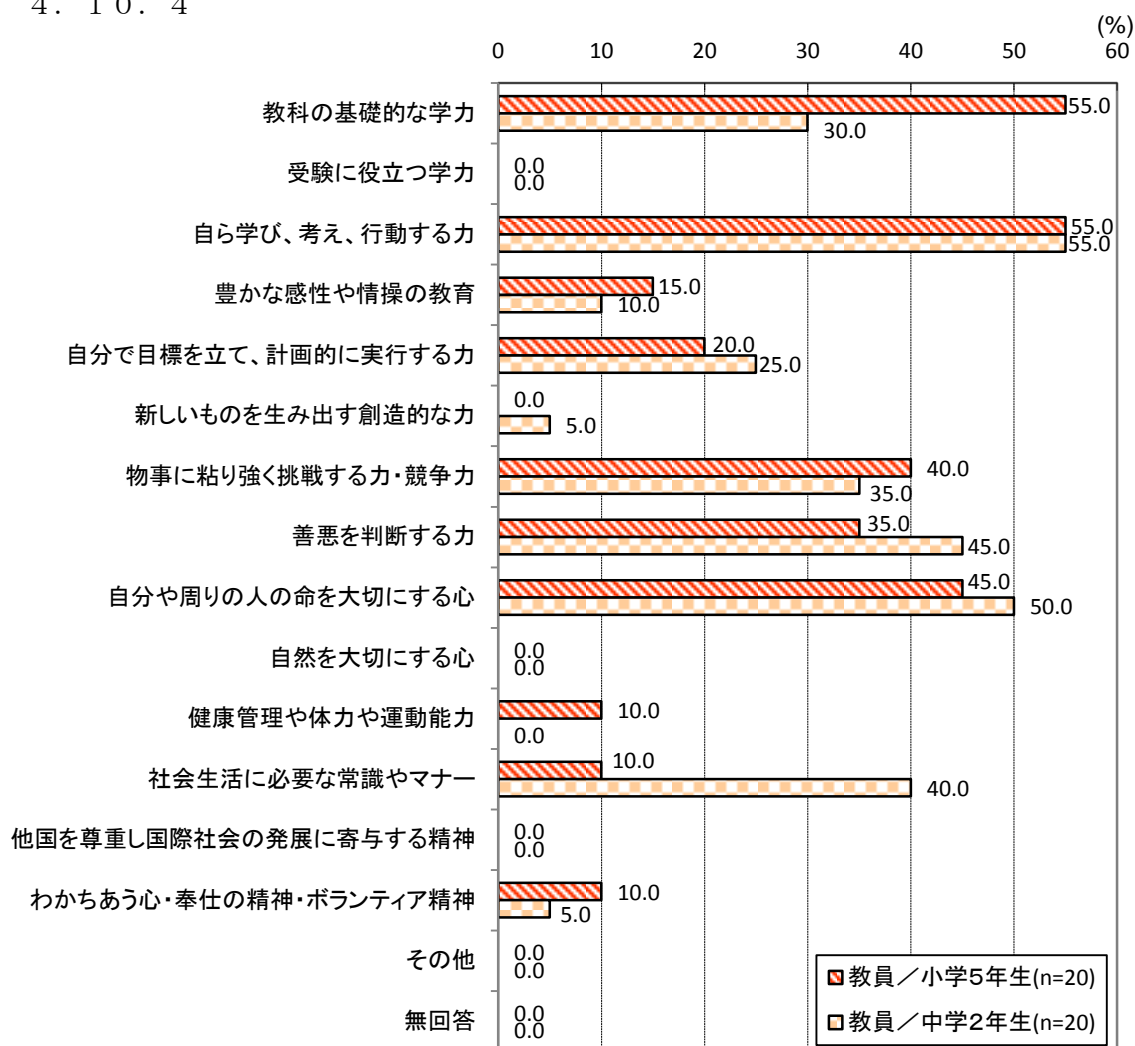
「健全な心」は小学校の教員では 45.0%に対し、中学校の教員では 70.0%、「家の手伝い」は小学校の教員では 50.0%に対し、中学校の教員では 75.0%と、やや開きが見られます。

エ. 児童生徒に特に必要なもの（教員）

児童生徒と関わる中で、特に重要と思うものを次の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。

| | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 教科の基礎的な学力 | 2 受験に役立つ学力 |
| 3 自ら学び、考え、行動する力 | 4 豊かな感性や情操の教育 |
| 5 自分で目標を立て、計画的に実行する力 | 6 新しいものを生み出す創造的な力 |
| 7 物事に粘り強く挑戦する力・競争力 | 8 善悪を判断する力 |
| 9 自分や周りの人の命を大切にする心 | 10 自然を大切にする心 |
| 11 健康管理や体力や運動能力 | 12 社会生活に必要な常識やマナー |
| 13 他国を尊重し国際社会の発展に寄与する精神 | 14 わかちあう心・奉仕の精神・ボランティア精神 |
| 15 その他（ | ） |

図 4. 10. 4



教員に、児童生徒に特に必要なものを聞いたところ、小学校の教員では「教科の基礎的な学力」、「自ら学び、考え、行動する力」がそれぞれ 55.0%と最も多く、次いで、「自分や周りの人の命を大切にする心」(45.0%)、「物事に粘り強く挑戦する力・競争力」(40.0%)と続いています。

中学校の教員では、「自ら学び、考え、行動する力」が 55.0%と最も多く、次いで「自分や周りの人の命を大切にする心」(50.0%)、「善悪を判断する力」(45.0%)と続いています。

小学校の教員と中学校の教員では、「社会生活に必要な常識やマナー」(小学校の教員：10.0%、中学校の教員：40.0%)、「教科の基礎的な学力」(小学校の教員：55.0%、中学校の教員：30.0%)において差がみられています。

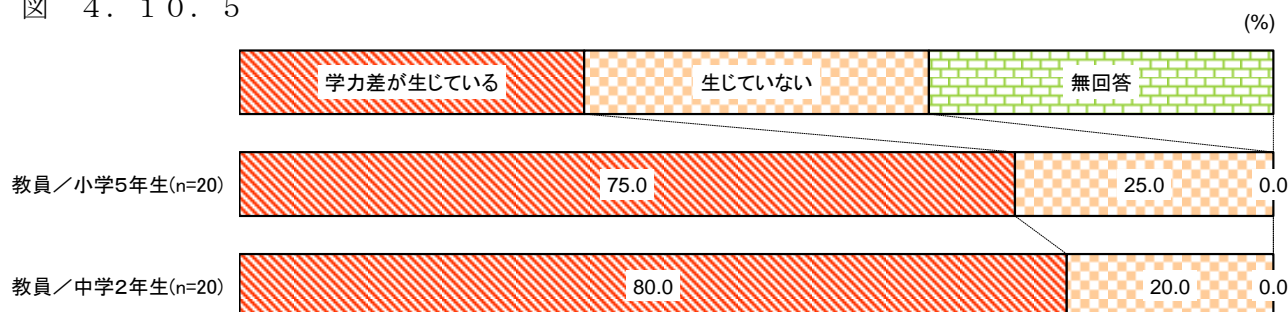
(2) 児童生徒の経済状況 (教員)

ア. 家庭の経済状況による学力の差 (教員)

児童生徒の家庭における経済状況により、学力に差が生じていると思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1 学力差が生じている 2 生じていない

図 4. 1 0. 5



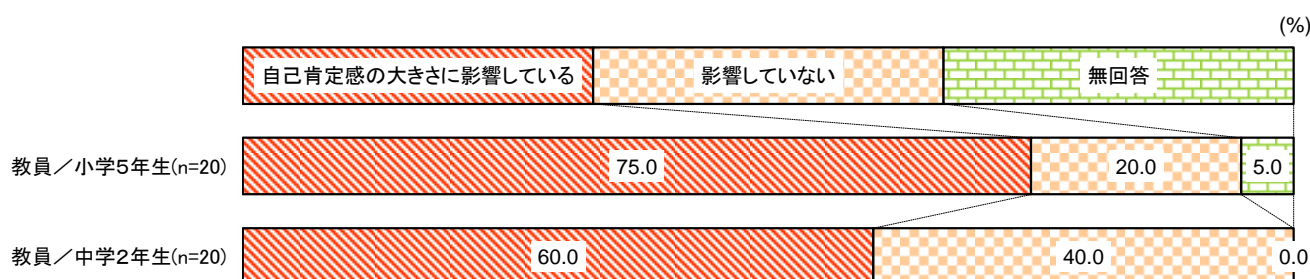
教員に、児童生徒の家庭における経済状況により学力差が生じているかを聞いたところ、小学校の教員の 75.0%、中学校の教員の 80.0%が「学力差が生じている」と回答しています。

イ. 家庭の経済状況の自己肯定感への影響 (教員)

児童生徒の家庭における経済状況により、児童生徒の自己肯定感の大きさに影響していると思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1 自己肯定感の大きさに影響している 2 影響していない

図 4. 1 0. 6



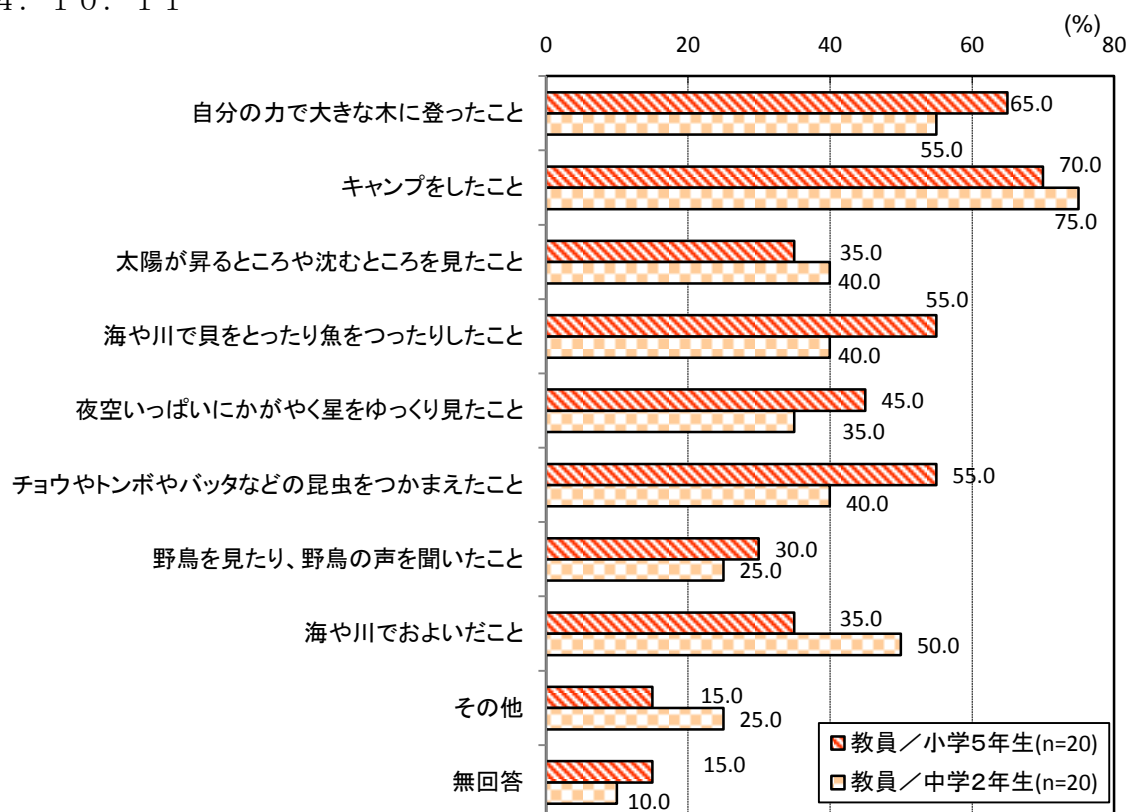
教員に、児童生徒の家庭における経済状況が自己肯定感の大きさに影響を及ぼしているかを聞いたところ、小学校の教員の 75.0%、中学校の教員の 60.0%が「自己肯定感の大きさに影響している」と回答しています。

ウ. 児童生徒の自己肯定感を高めるために必要な体験（教員） ※再掲

児童生徒の自己肯定感を高めるには、どのような体験が必要と考えますか。あてはまるものすべてに番号に○をつけてください。

1 自分の力で大きな木に登ったこと 2 キャンプをしたこと
 3 太陽が昇るところや沈むところを見たこと 4 海や川で貝をとったり魚をつったりしたこと
 5 夜空いっぱいにかがやく星をゆっくり見たこと
 6 チョウやトンボやバッタなどの昆虫をつかまえたこと 7 野鳥を見たり、野鳥の声を聞いたこと
 8 海や川でおよいだこと 9 その他（ ）

図 4. 10. 11



教員に、児童生徒の自己肯定感を高めるために必要な経験を聞いたところ、小学校、中学校の教員ともに「キャンプをしたこと」が最も多く、それぞれ70.0%、75.0%となっています。次いで「自分の力で大きな木に登ったこと」が、小学校の教員：65.0%、中学校の教員：55.0%で続いています。その次に、小学校の教員は「海や川で貝をとったり魚をつったりしたこと」、「チョウやトンボやバッタなどの昆虫をつかまえたこと」（いずれも55.0%）、中学校の教員は「海や川でおよいだこと」（50.0%）が多くなっています。

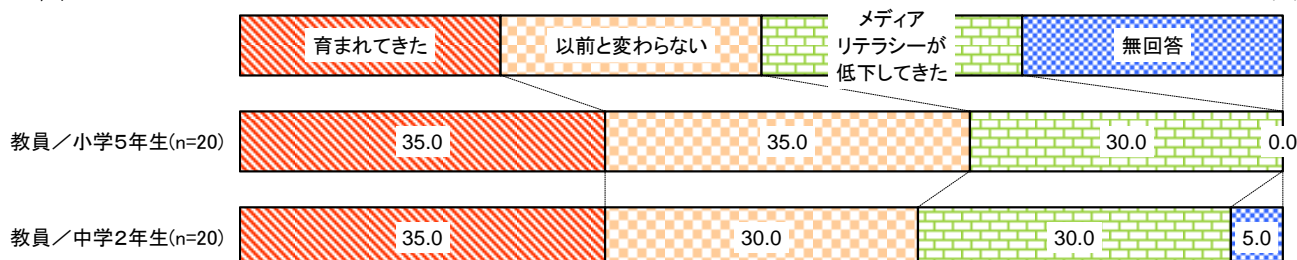
(4) インターネット

ア. メディアリテラシーの動向 (教員)

児童生徒がスマートフォンやパソコンなどでインターネットを使う中で、メディアリテラシーが以前より育まれていると感じますか。あてはまる番号に○をつけてください。
 1 育まれてきた 2 以前と変わらない 3 メディアリテラシーが低下してきた

図 4. 10. 12

(%)



教員に、児童生徒のメディアリテラシーが以前よりも育まれてきていると感じるかを聞いたところ、小学校の教員、中学校の教員のいずれも 35.0%が「育まれてきた」と回答している一方、小学校の教員、中学校の教員のいずれも 30.0%が「メディアリテラシーが低下してきた」と回答しています。

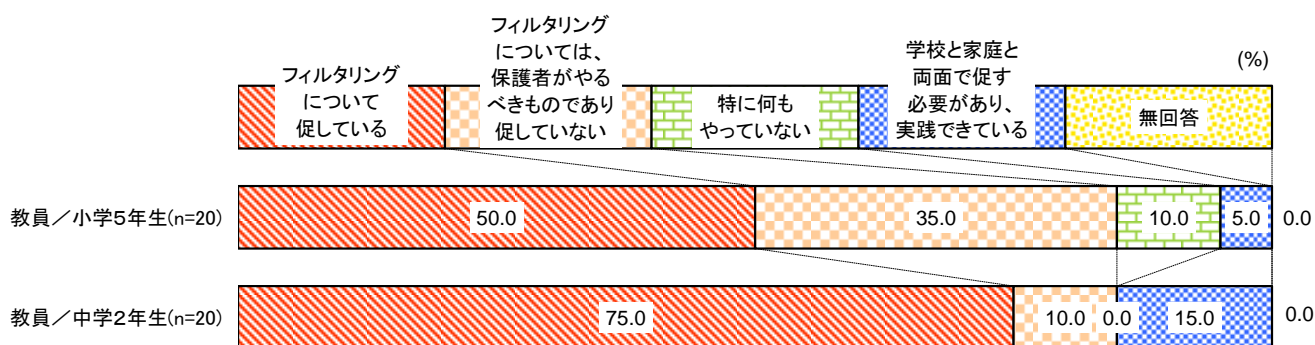
小学校、中学校の教員ともに、「育まれてきた」、「以前と変わらない」、「メディアリテラシーが低下してきた」の3回答がほぼ同じ割合で回答されています。

イ. フィルタリング利用への対応 (教員) ※再掲

児童生徒にフィルタリングの利用について、促していますか。あてはまる番号に○をつけてください。
 1 フィルタリングについて促している
 2 フィルタリングについては、保護者がやるべきものであり促していない
 3 特に何もやっていない
 4 学校と家庭と両面で促す必要があり、実践できている

図 4. 10. 13

(%)



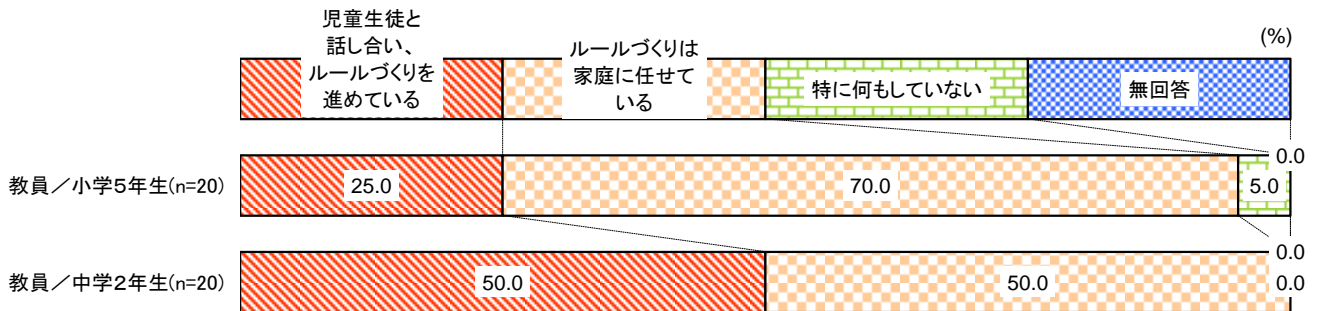
小学校、中学校の教員に、児童生徒にフィルタリングの利用を促しているかを聞いたところ、小学校の教員の 50.0%、中学校の教員の 75.0%が「フィルタリングについて促している」と回答しています。

ウ. スマートフォン（携帯電話・タブレット含む）利用のルールづくり（教員） ※再掲

スマートフォン（携帯電話・タブレット含む）について、ルールづくりを進めていますか。あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

- 1 児童生徒と話し合い、ルールづくりを進めている
- 2 ルールづくりは家庭に任せている
- 3 特に何もしていない

図 4. 10. 14



教員に、スマートフォン利用のルールづくりを進めているかを聞いたところ、小学校の教員では、「児童生徒と話し合い、ルールづくりを進めている」が 25.0%、「ルールづくりは家庭に任せている」が 70.0% となっています。中学校の教員では、「児童生徒と話し合い、ルールづくりを進めている」「ルールづくりは家庭に任せている」がいずれも 50.0%で同割合となっています。